2024年度町田市保健所運営協議会 会議録要約

・日 時：2024年7月22日（月） 19：00～20：40

・場 所：市庁舎 10階 10-3～10-5会議室

・出席者一覧

区分	所属	氏名	出欠
学識経験者	北里大学医学部	堤 明純	出
	産婦人科医	吉岡 俊輝	出
	町田こころのホスピタル	宮地 英雄	出
	昭和女子大学食健康科学部	調所 勝弘	出
医療関係団体の代表	一般社団法人 町田市医師会	山下 弘一	出
	公益社団法人 東京都町田市歯科医師会	戸羽 一	出
	一般社団法人 町田市薬剤師会	佐藤 康行	出
	東京都獣医師会町田支部	原田 智	出
	町田市民病院	金崎 章	欠
市民団体からの選出	町田市民生・児童委員協議会町田第二地区	渡辺 綱市	出
	町田市町内会・自治会連合会	川畑 一隆	出
関係行政機関の代表	警視庁町田警察署	川崎 和己	出(代)
	警視庁南大沢警察署	今村 輝明	欠
	東京消防庁町田消防署	黒崎 清貴	出(代)

※出：出席、出(代)：代理出席、欠：欠席

※敬称略

・要旨

発言者	内 容
保健所長	<p>1. 委嘱書交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委嘱書の配付 ・保健所長挨拶
	<p>2. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員紹介及び会長選出 (委員の互選により会長・副会長選出)
事務局	<p>3. 報告</p> <p>(1) 保健所運営協議会について (資料2に基づき、説明)</p> <p>(2) 「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」について (資料3に基づき、説明)</p> <p>((1)、(2)ともに委員からご意見、ご質問なし)</p>
保健総務課長 会長 A 委員 B 委員 C 委員	<p>4. 議事</p> <p>(1) 2023年度事業実績報告及び2024年度事業計画と進捗状況</p> <p>(資料4、参考資料に基づき保健総務課の事業について説明)</p> <p>災害関係についてご意見等はないか。</p> <p>今後このような連絡会があればぜひ合同で実施したいと思った。</p> <p>講演会について、今年度は現在調整中。</p> <p>災害医療について。だんだんと近づいてきているのではないかと 思っている。また、地震であれば東京湾寄りの首都直下型地震の方が 発生する可能性が高いため、自分たちが被災したときの対策だけで なく、すぐ近くの特別区が被災したときに何を準備して、何ができ るかも考えていかなければならないと思う。</p>

健康推進課長	(資料5、参考資料に基づき健康推進課の事業について説明)
D 委員	私は自殺対策推進委員会の方も今年度から引き受けており、今年度は5月に開催された。内容はこれまでの経過報告であったが、このほか委員から意見が多く出た。全国的な傾向として、自殺者の推移はどんどん下がるものではなく、下がっていくと思ったら、上がる。自殺の原因や内容は様々な領域にまたがっているため、委員にもなっている市民団体、警察署、消防署の方々などと、どうやって連携していけばいいかということが重要だと思っている。
会長	SNS を使ってみたり、孤立というワードも非常に大切になってきているので、各方面にご協力いただければと思う。
E 委員	自殺対策には児童の自殺も対象となっているのか。
D 委員	なっている。小学校、中学校の校長先生方に出させていただいて、そこからも数はそれほど多くはないが様々なサインが出ているということで、それを拾ったり、バックアップしたりしていくかという意見が出ましたのでそこも反映をしていければと思う。
E 委員	地域での活動の中で、担当している地区のお子さんが2名ほど出ている。お子さんの原因は特定が難しい。
D 委員	問題の深さとしては若年の方もいる。若年層向けには、さっきも出ましたが、SNSは活用できるツールになってきている。
会長	がん関係も広く活動されているが、個人勧奨等、意見はあるか。
F 委員	がん検診をどう推進していくかというのが難しい問題と考えている。子宮頸がん検診の受診率が低いというのが問題となっている。さらに検診率を上げるためにどう進めていくべきか。今までの個別勧奨でどれくらいの方が受けているかを改めて確認していただいて、何ができるかみていただければと思う。 20歳以上が子宮頸がん検診の推奨にはなっているが、かなり新しい世代が対象となってきており、最適なアプローチも変わってきていると思うため、その辺りも検証していただければと思う。
C 委員	子宮頸がんワクチンはキャッチアップ接種が終わるため、なんとか接種率を上げる必要がある。周知の仕方も、自分の娘になったら怖

<p>健康推進課長</p>	<p>くないか、と親御さんに周知する必要もある。普通のがんとは異なり、若い方でもがんで亡くなる方もいる。</p> <p>また、話は変わるが禁煙について。今、禁煙外来は、薬剤が出荷停止になっていることから行われていない。そのため、喫煙場所をとにかく減らしていくしかない。役所にもまだあるかと思うが、なるべく皆さんが禁煙できるように啓発して行ってほしい。5月に世界禁煙デーあった。(テーマカラーの) イエローグリーンを活用して、来年度は市庁舎を世界禁煙デーにあわせてライトアップすることも検討してみるとよいのではないか。</p> <p>子宮頸がんワクチン接種のキャッチアップは接種間隔の関係で、確かに接種勧奨するための期限に近づいている。既に個別勧奨もしているため、接種につながればよいと思う。</p> <p>最近では You Tube で対象者本人、周囲の方にもご覧いただき、若くてもなるものだとして認識していただけるように取り組んでいる。</p>
<p>保健予防課長 保健予防課母子保健担当課長</p>	<p>(資料6、参考資料に基づき保健予防課の事業について説明)</p>
<p>会長</p>	<p>栄養・食生活関係はいつもパンフレット等感心しておりますが、この辺りの分野はいかがか。</p>
<p>G 委員</p>	<p>食育活動について、本当に幅広く普及啓発してくれていると思う。食は毎日食べている皆さんにとって当たり前のことであるが、もっと大切なことであると気づいてもらうために、色々なところでの行動が大事。このような活動をどんどん広げていき、関心を持つ市民が増えていってくれたらうれしいと思う。</p>
<p>B 委員</p>	<p>コロナ禍で縮小してしまった乳幼児の歯科健診を再開して欲しい。また、特別区では8カ月でも健診をしているところがあり、実施の検討をして欲しいと思う。</p>
<p>F 委員</p>	<p>妊娠期から産後に至るまで様々なステージにおける支援が素晴らしい。子育て中の女性における孤独感や社会的孤立は問題となっており、女性本人だけでなく子どもの発達にも影響が出ると研究で言われているため、そこをサポートしていくことは大切。</p> <p>そこが昨今問題となっているため、重点的に考えて欲しいと思う。</p>

会長	感染症関係はいかがか。
C 委員	最近またコロナも増えているが、そんなに騒ぎにはなっておらず落ち着いている。ただ、昨日か一昨日、はしかにり患した方が見つかったため、注意喚起が必要。
H 委員	食育に関して非常によく取り組まれていると思う。子ども食堂と食育との関係、保健所はどう捉えているのか。また、子ども食堂をしている方が栄養等についての相談窓口はあるのか。
保健予防課長	今現在では子ども食堂との連携はできていないが、孤食を防ぐなど食育についても非常に大事なことであるため、今後何らかの連携をしていきたいと考えている。
H 委員	町内会・自治会等、色々なところでやっているため、そういった方々に、何かあれば保健所に相談したらいいよ、と声かけができるようになればいいなと思う。
D 委員	資料6の4頁の(1)、子育て支援のところで、進捗状況でいくと面接395件、面接した上で支援計画を作成したのは29件というのは今年度2か月の実績ということか。29件の中で医療まで行くのはどれくらいか今は分からないか。
保健予防課 母子保健担当課長	まだ支援中であるため、今後支援していく中で医療につなげる必要になるかどうかというところ。
生活衛生課長	(資料7に基づき生活衛生課の事業について説明)
J 委員	<p>災害時のペットの同行避難について。東京都獣医師会でも、最近だと能登地震になるが、災害時に避難所にペットを連れて行けず、家に置いていくこともできずに飼い主が避難をしなかった事例がかなりあり、安全に同行避難できる環境を確保することは、非常に重要なことと考えている。そういったことが事前に周知され、いざというときに、ペットも含めて安心して避難できるようにする必要がある。</p> <p>オンライン化について。狂犬病予防接種率を上げていく中で、登録自体をされていない動物もいると思うが、やはり登録を面倒に思う方もいる中で、オンラインでできる中では進めていくと良い。</p>

C 委員	町田には外来種の動物はどれくらいいるのか。 また、農業などしているとハクビシンなどに畑を荒らされてしまうことがあるが、駆除できるのか。
生活衛生課長	保健所の管轄は愛護動物になるため、野生の動物等については指導の対象にしたり、駆除したりということはない。環境資源部について野生の関係は受けているが、基本的にはむやみに駆除はできないものと思う。
会長	議事は全て終了したが、全体の中で伝えたいご意見・ご質問等はないか。
I 委員	<p>オーバードーズの件数について。自殺対策と近いのかもしれないが、最近分かってきたこととして圧倒的に女性が多い。原因としては生きづらさからきている。入手場所は薬局・ドラッグストアとなっているが、対象品目を大量に置いている薬局はあまりなく、薬剤師会だけで対処するのは難しいと考えている。できることとしては、オーバードーズも自殺対策と同じく気づきや声かけ、つなぐことが大切。そういった意味では、これまでオーバードーズは薬物乱用に近いと考えていたが、自殺に近いのという印象。そうなると、ゲートキーパーと考えたときに、いきなり自殺ということではなく、オーバードーズという切り口もあるのではないかと思う。</p> <p>よく様々なところから、自殺予防月間ということでポスター等がくるが、掲示するのに印象がきつく感じることもある。オーバードーズを自殺対策の入り口のひとつとして、考えてもらうこともあるのではないか。</p>
D 委員	生きづらさが根底にあり、幅広い原因がある。すぐ死にたいというのではなく、一時的に眠りたい、現実から離れたいという気持ちからスタートして、どんどんエスカレートするもの。入口からはそこにつながるまでの自殺予防のひとつにはできるのではないかと思う。自殺対策委員会でも、次回取り上げていきたいと思う。
事務局	<p>5. 閉会</p> <p>以上で保健所運営協議会を閉会する。本日は誠にありがとうございました。</p>